

第 1 号
令和 2 年 5 月発行

すがのレター

あなたらしさにより添う看護

東京歯科大学
すがの訪問看護ステーション
電話 047-706-6500
FAX 047-706-5711
E-mail suganohoukan@tdc.ac.jp

ごあいさつ

おかげさまで東京歯科大学すがの訪問看護ステーションは、開設より 10 ヶ月がたち新年度を迎えることができました。訪問看護師として経験が浅いスタッフばかりのステーション、地域の医療・福祉の現場で活動される皆様のご指導・ご協力のおかげと、スタッフ一同感謝しております。

当ステーションは開設以来 90 名余りの利用者様と関わらせていただきました。地域にでて私の率直な今の思いは「利用者様一人として同じ方はいない。」ということでした。病院で勤務していた時は病気を治すことを重点的に考えていました。しかし、地域においては、様々な疾患をもちながらもその人らしく生活していくことが最優先です。自宅環境、家族構成（背景）、利用者様の大切にしている思いはそれぞれです。利用者様を全人的にとらえ、その持てる力を最大限に活かすためにはどこをどのようにサポートをしていけばいいのか、利用者ひとりひとりに考えていくこと、訪問看護の難しさとやりがいをととても感じております。そして生活を支えるためには、訪問看護師としてやれることはごくわずかであります。医師、介護支援専門員、薬剤師、介護福祉士、福祉用具専門員等々様々な職種の方の専門性を改めて実感し、チーム医療の大切さを真摯に感じております。

新型コロナウイルスが一日も早く終息することを願いつつ、また終息した際は事例検討会や地域の交流等を開催できればと考えております。

今年度も理念である『あなたらしさにより添う看護』が提供できるようスタッフ一丸となって頑張っていく所存です。今後とも東京歯科大学すがの訪問看護ステーションをよろしくお願い申し上げます。

東京歯科大学すがの訪問看護ステーション所長 柴尾裕加里

利用者様の今

心のつながりや安心感で訪問看護継続中

70 代男性 独身 肘関節術後、創部処置と体調管理、装具の装着確認にて介入しました。

介入当初は訪問看護の必要性を感じていませんでしたが、本人の思いを聞きながらコミュニケーションをとっていくうちに受け入れも良く、困った時や体調が悪い時は頼ってくれるようになりました。

糖尿病もあり創部の状態が悪化するとともに体調を崩し、緊急入院をしたこともありましたが、自身の健康にも意識を向けられるようになり、現在では体調を崩すことなく自分の生活ができています。

開所第 1 号の利用者様、介入を開始して 10 か月、ご本人に訪問看護への思いを聞きました。

「退院時に訪問看護の話聞き、自分が病人扱い、年寄り扱いされているのが嫌だったからはじめは抵抗したが、思いやりや接し方が良かった。訪問で処置をしてもらうことに感謝が芽生えたからかな。そこから訪問に来てもらうことを受け入れられるようになった。心のつながりというか、信頼関係ができたってことだな。一時、元気になってきたから訪問はいらないかなと思った。しかし、一人暮らしだし、困った時に電話することで体調をみてもらえて安心だから。訪問看護を利用しても生活は変わってない。今は体調がいいから 2 週間に 1 回きてもらって体調をみてもらうのが丁度いい。」と振り返ってくれました。

ご本人は「生活は変わっていない」と話していますが、医師より食事のことでアドバイスをもらってそれを実践し、インスリンの使用量が少なくなってきました。これからも本人の思いにより添いながら、生活を見守っていきたいと思います。

訪問看護師 小澤宏美



＜新型コロナウイルス対策＞

1. 訪問日の朝、利用者様に電話で体調を確認し、訪問を実施しています。体調の状況によっては、訪問時間を変更させていただいています。
2. ステーションの職員は、出勤前に体温測定等体調のチェックを行い、有症状の場合は職場に連絡、自宅待機としています。

1 日も早く、安心した生活が戻ることを願い、頑張ります。



3密×

